～医療生協健文会の職員のみなさま～

メロス通信 不定期便

Vol.22
2024年8月号
発行 地域福祉室

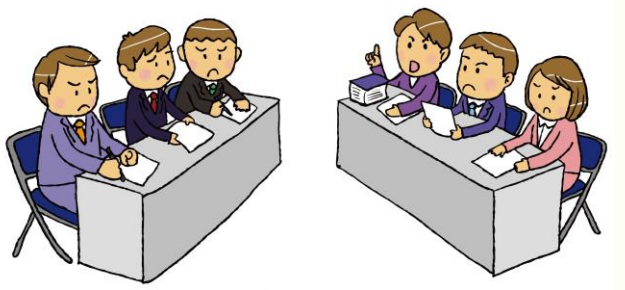
『生活と健康を守る会連合会』の対県交渉に参加

『生活と健康を守る会（生健会）』は生活保護利用者と国民の権利を守る活動団体です。

冒頭に会員から悲しい報告がありました。ある活動に熱心な会員が病院から生活保護者が差別されていると感じ受診を控えたことで末期がんになってしまったことです。生活保護制度のなかでいくらも病院に行く機会はあったのに、医療従事者から感じるスティグマで受療権が守られなかったことは遺憾です。私たちは当事者の声を聞こうともしない偏見に満ちた場面がいたるところにあることを忘れてはなりません。

地域福祉室からは生活保護でエアコンが買えず熱中症で亡くなったA市の事例を報告しエアコンの購入と修理の助成を求めました。すでに奈良県生駒市では全国に先駆けて生活保護利用者すべてを対象にエアコン設置と修理費を助成することが決まっています。会員からも「物価が上がって保護費から電気代を出すのは大変、何とかしてほしい」と悲痛な声が上がりましたが、県は「国に従う」というだけで満足な反応はありません。

全部で49項目の医療、福祉、暮らしの様々な問題を取り上げた要求は、会員それぞれが直面している困難やつらさを持ち寄り社会の誰もが健全で豊かになるために考えぬかれたものでした。それに対し県の回答はごく簡単なもので私たちの思いを理解してもらえたとは思えませんでした。しかし仲間とつながり当事者の思いと事実を声に出して伝えていくことは偏見とたたかい国民の権利を守ることです。今後もこの活動に参加していきます。



第6回Club Gyarossでは

“子どもの権利と健全な育成のために私たちができること”をテーマに、これから子どもに関わる事例にどう対応したらいいか、子ども自身の願いとは、育成の基盤となる大人の暮らしの不安定や歪みについて、事例をもとに意見交換しました。いま行われている乏しい公的支援と周囲の善意だけでは、子どもたちが成長を遂げるまでに支援が立ち消えかねません。多様な問題への現実的対応と“子どもの尊厳と光ある未来”を考えていかなければいけませんが、この社会では道のりは苦い…

子どもの貧困問題に解決の近道はないが、身近に出来ることはある！

先日の山口塾ではこども明日(あす)花(はな)プロジェクト 代表 児玉頼幸さんから子どもの貧困への取り組みを伺うことができました。日本の子どもの貧困率は13.5％、全国で約260万人、山口県でも約2万5千人の子どもが食事や教育を十分に受けられず、居場所もない状況に置かれています。こども明日花プロジェクトは「明日、子どもたちの花（希望、夢）を咲かせよう」と“本気で子どもに寄り添うNPO法人”として、学習支援、子どもの居場所づくり、子ども食堂、弁当無料配布などボランティアと共に行っています。

こども明日花プロジェクトでは、ひとり親世帯で経済的不利な状況に置かれながら同じ悩みをもつ友だちと優しい大人に囲まれて、夢をあきらめず自力で飛び立っていく子どもたちがいます。そして巣立った子はボランティアとしてもどってきます。子どもに花を咲かせたいと願い支援を手伝う医学生や看護学生もいるそうです。子どもの貧困をなくすことは簡単なことではありませんが、こうした“たくさんのつながり”が子どもの人生を変えることがあるのだと嬉しく思いました。「子どもの貧困問題に解決の近道はないが、身近に出来ることはある！」のだと。

しかし、私たちのこのような善意の活動だけでは限界があり、貧困を生みだす不安定雇用や低賃金、高い教育費などの社会構造に目を向け、子どもが育つ環境を保障するために私たちひとり一人の地道な運動が必要だと思います。

さて、9月20日（金）のクラブ・ギャロスでは「子どもアドボケイト」から医療における“子どもの尊厳”について考えていきます。